



2023年1月号(No.13)  
 公益社団法人 日本山岳会  
 The Japanese Alpine Club  
 東京都千代田区四番町5-4  
<https://www.jacl.or.jp>  
 編集担当: 新井 梓

3カ月に一度発行する「山」YOUTH版では、YOUTH CLUB 世代の会員のご活躍、東京や各支部のYOUTH CLUBの取組みなどをご紹介します。話題のご提供や感想など、ご意見何でもお待ちしております！

## 広島でユース交流会を実施——有意義な交流と事故

昨年11月初旬、広島支部創立25周年を機に、広島支部、本部、東海支部、関西支部、東九州支部のユース会員が集まり、合同登山・クライミングで懇親を深めた。各支部のユース世代が知り合い、切磋琢磨した有意義なイベントで、次の開催が楽しみに待たれる。

11月3日(木・祝)～6日(日)の日程で、広島でユース交流会が開催された。参加者は東海支部、関西支部、広島支部、東九州支部、本部ユース(青年部、WV部、学生部)から、さらには松田宏也理事(千葉支部長)、柏澄子常務理事にもご参加いただき、地元・広島支部からの日帰り参加の方々を含めれば、約30名もの人数が集まる大きな催しとなった。



### 天応烏帽子岩山でのクライミング

初日、2日目とクライミングと登山を実施した呉市にある天応烏帽子岩山は、広島県に住む人以外ほとんど知る人はいないだろうが、これが実に最高の岩場であり山である。ここから眺める瀬戸内海の多島美の素晴らしさは日本の海景色の中でも最上級とやりたいほどだし、岩場は岩質のよい花崗岩で規模も大きく、初級者に適した易しめのルートが多い。

初日は松原が岩場の基部で簡単なロープワークのレクチャーを行い、その後天応のメインエリア・ナメラ岩で2ピッチのマルチ登攀を楽しんだ。また登山班の2名は、広島支部・吉村千春の案内で、一般道から眺めのよい天応烏帽子岩山頂上まで往復した。

3日、4日と宿泊したのは天応の対岸に浮かぶ江田島にある青少年交流の家である。国の施設ゆえの

銀座尾根を上り切ったところにある「ドン亀岩」は、瀬戸内の多島美を一望できる絶景ポイント。松原委員長(中央)と東九州支部、本部WV部メンバー

制約もあったが、2食付きで2千円台で泊まることができ、江田島という場所も新鮮であった。初日の夜はネパールから帰国してまもない広島支部の吉村、大田由孝、大野雅樹からアマ・ダブラム登山の報告をしてもらい、4日の夜は東海支部の山田利行がマナスルとアマ・ダブラムの報告を行なった。

11月4日、登山班の2名は、江田島内にある陀峯山に吉村の案内で出かけた。眺めのよい岩山だそう、登山だけで江田島に来て楽しそうだなと、話を聞いて思わせられた。クライミング組は再び天応烏帽子岩山に行って、銀座尾根という岩稜系のマルチピッチを5パーティーに分かれて登った。易しく、楽しく、景色は最高という文句なしのルートで、広島の大田に言わせれば、「初めての人をここに連れてくれば、必ずクライミングにはまる」というこ

とである。この銀座尾根を楽しく登り、ナメラ岩基部まで下りてきてから事故が起こった。

### 古いハーケンによる事故

少し時間があつたので1本だけショートルートを登ろうと、ナメラ岩の5.9のルートに青年部のNが取付き、途中で難しいと感じて右の方に寄っていった。右は5.7のルートなのでそのまま登るか、あるいはクライムダウンすればよかったのかもしれないが、そこで途中で下りるために古いハーケンにテンションをかけたところ、そのハーケンが破断し、6～7mのフォールとなった。地面まで落ちたわけではないが、スラブ状の岩に足から落ちたため、骨折となってしまった。

天応のナメラ岩は比較的易しめのルートが多い岩場だが、それゆえにボルト間隔が遠いところや古い支点が残っているところが一部にある。そのあたりをよく吟味せず、安易にルートを選んだことと、古いハーケンにテンションをかけてしまったことなどが直接的な事故の原因として挙げられる。また、まだ経験の少ないNに適切なアドバイスをしてあげられなかったことももちろん反省しなければならぬ。Nはヘリコプターで広島市内の病院に運ばれ、入院することになった。

### ユース年代が集まった素晴らしい4日間

11月5日(土)は、広島支部創立25周年の記念

イベントが催されるため、広島支部のメンバー及び本部役員である柏、松田はその式典に参加した。残りのメンバーはこの日は三倉岳に移動し、クライミングを行った。

最終日6日は、広島支部の記念山行が世界遺産の宮島・弥山<sup>みせん</sup>で実施されるので、松田、柏、三井の3名はこの登山に参加し、残りのメンバーは前日に続いて三倉岳でクライミングを行なった。この日は広島支部のメンバーもふたたび大挙して三倉岳に来てくれて、最終日も大いに交流を深めることができた。

「こういう機会を(日本山岳会に入会して)20年待っていたんです」。今回初めてご一緒した東九州支部の田所歳朗は、そんなことを私に語った。

日本山岳会のユース年代の会員がこれだけの人数集まる催しは、今から7～9年前に実施された剣岳での研修会以来久しぶりのことである。こうして交流を持つことの素晴らしさはおそらく参加した誰もが感じ、本当に有意義なイベントだったと思えるからこそ、事故を起こしてしまったことが胸に重く残る。

振り返って考えれば、直接的な原因だけでなく、主催者である私自身の計画の甘さや準備不足、そして油断があったことが事故につながったのだと思い至る。今回の事故をしっかりと反省し、次は万全の計画と準備でのぞみたい。そう強く念じている。

(ユースクラブ委員長 松原尚之)



4日夜、江田島青少年交流の家で行われた東海支部・山田利行の海外登山報告

<参加者> (本部) 柏澄子、松田宏也、松原尚之、(青年部) 涌嶋満、中村淳史、(WV部) 新井梓、三井賢治、(学生部) 田島圭悟、瀧澤岳、山上耀一郎 / (東海支部) 山田利行 / (関西支部) 竹中雅幸 / (東九州支部) 田所歳朗、笠井美世、橋本桂 / (広島支部) 吉村千春、勝田直樹、大田由孝、井上紀江、大野雅樹、田中明良、安松崇、岩切大善、中尾新士、原俊介、金井貴裕、奥迫拓也、半川慎一郎、中原菜月、東真実子

## ■学生部活動レポート

# 雪山シーズンを前に学生部が谷川岳で合同雪上訓練

コロナ禍が続き、各大学山岳部では登山の機会が減っていたが、学生部では例年通り、合同雪上訓練を実施することができた。今年は5校の学生たちが参加し、雪山登山のための訓練に打ち込んだ。

学生部主催で、12月10日(土)～11日(日)に谷川岳天神平において実施した合同雪上訓練についてご報告します。

学生部に所属する各大学には、コロナ禍の影響を受け、十分な活動を実施できない部や上級生不足により単独では十分な雪上訓練を実施できない部が存在します。年末年始を前に最新の雪山技術を伝達する事と各大学の親睦を深める事を目的として、昨年度に引き続き合同雪訓を実施しました。

今回は講師として青山学院大学山岳部監督の村上正幸さんと東海大学山岳部監督の杉原一樹さんがご参加くださり、学生は5校から、合計15名が参加しました。

初日は谷川岳ベースプラザに集合し、杉原さんより雪山装備とレイヤリングに関して30分程度説明をしていただいた後、ロープウェイに乗車し天神平へ向けて行動開始。天候は快晴で暑いくらいの天候でした。天神平スキー場内で、つぼ足とアイゼンでの歩行訓練を実施し、基本的な技術を教えていただきました。その後、ロープをコイル状に巻きタイトロープで行動する方法を実践しましたが、普段の活動でタイトロープを経験した事の

ある学生はおらず、貴重な経験でした。訓練終了後、スキー場上部の尾根において幕営。各大学のテントをお互いに見学し、各大学の生活技術を共有しました。

2日目もスキー場内で雪上訓練を実施。冬型の気圧配置となり、初日とは対照的に曇り空で厳しい寒さでした。最初にブッシュを利用した支点作成や、雪上での支点作成について教えていただいた後、タイトロープの復習を行いました。2人1組になり腰がらみビレイやブーツアックスビレイを交えながら斜面を往復し、最後に要救役の村上さんをツェルトで梱包し、搬送訓練を行いました。

雪が少ない状況でしたが、今年度もなんとか雪上訓練を実施する事ができました。コロナ禍で登山の機会が減ったため、各大学に正しい雪山技術を伝達する必要性や、途絶えてしまった各大学の交流を再び活発化する必要を感じています。合同雪訓はどちらの面でも効果があり、とても有意義に感じられました。来年以降も継続したいと考えています。講師を引き受けてくださったお二方に改めて御礼申し上げます。

(学生部委員長 中田康太郎)



今回参加した15名の学生たち。みなで切磋琢磨するのは刺激があって楽しい！



雪訓は天神平スキー場横で行われた

## 最近のユース交流とユースクラブのこれから

ユースクラブが設立されて10年が経った。現在では東京本部のほか、全国支部でも少なからず、ユース会員が活動している。各地にいるユース世代をつなぐことはできないか。今年4月から本部ユースを再編し、ふたたび日本山岳会のユースクラブを盛り上げたい。

劔岳で支部本部合同のユース研修会が行われていた時期があった。劔沢の登山研修所前進基地をベースとし、青年部、東海支部、四国支部、広島支部、越後支部などから30名近いメンバーが参加した。

2013年9月～2015年9月の3回で、はや7～9年前ということになる。2016年3月には積雪期の仙丈ヶ岳でも合宿が行われた。それからしばらく組織だった交流山行は行われてこなかったが、最近になって、ふたたびユース交流の機運が高まりを見せている。

青年部メンバーはちょこちょこ広島や関西に足を運び、積極的な交流をはかり、WV部も越後支部と合同で佐渡の山を歩いたりした。昨年5月、東海学生山岳連盟出身の若者の結婚披露という非公式な集まりながら、東海、広島、青年部などから数十名の会員が御在所・日向小屋に集結し、高橋・東海支部長をして「奇跡のような一夜」と言わしめるほど楽しい時間を過ごした。昨年11月には広島で交流会が催された。

年次晩餐会を終えてまもなく、ある支部の事務局の方からメールをいただいた。20代の会員2名とともに、ユースクラブの活動に参加



2013年8月、劔岳の登山研修所前進基地を活用して行われた合宿。再びこのような新入会員が成長できる場を設けたい

したいというありがたいお申し出であった。

広島でユース交流会をやるにあたって私が頭を悩ませたことは、どこの支部にお声がけをするかということだった。結局一部の支部へのお誘いにとどめさせてもらったが、一つでも多くの支部が参加して実施されるのが望ましいのは言うまでもないことである。

晩餐会では昨年のヒマラヤキャンプに参加した3人のメンバーとも知己を得ることができたので、今後は支部本部間の交流の輪をさらに広げるとともに、こうした若い仲間たちとも積極的につながりをつくっていきたいと考えている。

この春、青年部とWV部は統合し「ユースクラブ」として活動していくことになるが、時節柄例会はオンライン（とリアル）で実施しているので、地方在住の方でも参加していただくことが可能である。

ユースクラブが若い人たちの山登りのクラブであると同時に、全国で活動するJACの若い会員たちをつなぐ場になっていけたらうれしい。

松原尚之

ユースクラブに関心のある方は、ユースクラブ委員会のメールアドレスにご連絡ください。  
jacml-yc@jac1.or.jp



2016年3月には仙丈ヶ岳で合宿を行った